

か ぜ

蒲郡市民病院広報誌

海風 Kaze 風

地域の泌尿器科診療の核として

蒲郡市民病院院長補佐兼
泌尿器科特別診療科部長
泌尿器科 医師

中根明宏

No.

18

2025
WINTER

蒲郡市民病院院長補佐兼
泌尿器科特別診療科部長
泌尿器科 医師

なかね
あきひろ
中根 明宏

夢は昆虫博士から
やがて医師へ。
目標を決めたら一直線。

外科的であり、内科的。
小児から高齢者までを
対象とする泌尿器科へ。

幼い頃から生き物が好きで、幼少期を過ごした岡崎の野山を虫カゴと虫取り網を持って走り回っているような子どもでした。捕まえてきたキリギリスやセミの幼虫、メダカなどを眺めて一日が過ぎていく毎日だったと思います。子どもの頃は昆虫博士のような、漠然と生き物や生命のメカニズムについて研究するような職業に就きたいな、と考えていました。やがて、実家が薬局で父親が薬剤師であったことから徐々に薬や医療に関心が湧き、元々から生命に対して強い興味を持っていたこともあって、高校2年生に上がる頃にはほんやりと医師を目指したいと思うようになりました。学業熱心な高校だったこともあり、高校時代はほぼ勉強一色。念願の医学部に入学してからは、高校時代にやっぴこなかった部活動(剣道)にも勤しみ、礼儀や人間関係を学び、遅まきながら青春を謳歌する機会を得ました。

医学生として学びを進めると、やがて実習で色々な診療科を回るようになりますが、比較的手先が器用な方だったこともあってやはり手術治療を行う診療科が楽しく、自分に合っていると感じました。手術が好きなら外科で良いのではと感じたものの、外科も臓器ごとに専門が分かれており、自分に合ったものは何かと考えていたところ、泌尿器科の実習を受ける機会を得ました。

泌尿器科というと、尿の出を良くする治療をしたり、外陰部の治療をするような印象を持たれるかもしれませんが、実際は、排尿に関する内科的な治療を行いながら、腎尿路専門の外科であるということがわかりました。肝腎要(かんじんかなめ)という言葉があるように、腎臓は生命維持にとっても重要な臓器。その臓器を扱う外科であり、ある程度の全身的な治療を、主治医として全て自分で行う

内科的に問診・診察し、外科的手術も行う泌尿器科。治療の最初から最後までを主治医として関わります。

ことが求められます。また、

もう一つの特徴として、患者層が広い点にもひかれました。小児の先天性疾患で最も多いものは停留精巣と言いますが、陰嚢内にちゃんと降りてこない病気がです。一方、腎臓や膀胱、前立腺の癌などは高齢者が多い疾患です。臓器として限定されるように思われませんが、腹部から外陰部までの広範囲にわたり、また小児から高齢者まで幅広い患者さんの診察をする科であることからきつと自分に合った分野になると感じ、泌尿器科を専門としました。

**自分の科だけでどうにか
なると思わない。
チーム医療・院内連携の
大切さを学んだエピソード。**

十数年前の話になりますが、腎臓の癌の手術をした患者さんの事例で、自分の医者人生に大きく影響したことがあります。

ました。

腎臓は多量の血液が流れる臓器なので、手術をする際に大量出血のリスクがあります。この患者さんも大変な手術で、無事に腎臓を摘出できたものの出血量が多く、輸血が必要となりました。この輸血が原因で、10万回の輸血に1〜4回というごく稀な合併症で致死率が約15%にのぼる「輸血関連急性肺障害」という重篤な疾患を発症してしまいました。「肺水腫」という肺に水が溜まって呼吸が維持できない状態になり、気管に呼吸を管理する管を入れていたのですが、肺に溜まった液体がその管から噴出するほど。そのままでは窒息してしまつたため、悩んだ挙句、あらゆる診療科の医師に相談して知恵を借り、協力を仰ぎ、結果、体外循環のカテーテルを挿入し、人工心肺装置である「ECMO」で呼吸の管理を行うことになりました。

コロナが蔓延した当初、重篤な肺炎患者に使用したとい

うECMOが流れて一般の方にも名前が知られるようになった「ECMO」ですが、十数年前はそれこそ最先端の機器。医療関係者ですら名前は知っていても使用経験のない人がほとんどという時代でした。たまたま当時在籍していた病院が心臓血管外科に力を入れていたため配備されていたが、現在に比べかなり初期のものでしたし、術中の短時間使用ならまだしも長期間使用で不具合が出ないとも限らず、不具合が出れば予備があるわけでもないの、即、命に関わります。発症したのが年末で、結局、そこから年をまたいで二週間、着替えを家族に持つてきてもらいながら、臨床工学士の方と二人三脚で、病院から一歩も出ずに対応しました。そのかきもあつてか、患者さんは奇跡的に肺水腫が改善。

ECMOから離脱することができ、その後は落ちてしまった

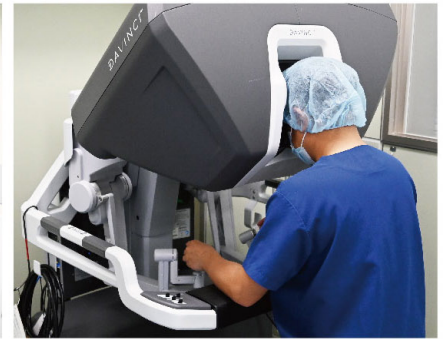
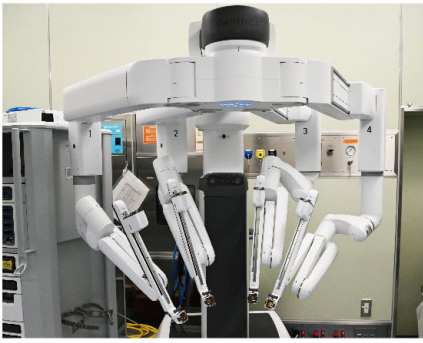
筋力を取り戻すようリハビリも頑張っていたから、無事に退院。最終的にご家族で旅行に行けるまでになり、普通の生活に戻っていたことができてご本人、ご家族からも感謝いただきました。この経験から、医療はチームであり、頑張っていれば色々な力が借してくれる、ということ学びました。

**人間の子どもは
発達途上で生まれてくる。
だからこそ専門の
「小児泌尿器科」が必要。**

泌尿器科が扱う臓器は腎臓から始まり尿管、膀胱、尿道とつながっています。長く、それぞれに機能があるこれらの尿路に加え、精巣や陰茎といった男性生殖器が診療領域ですが、実は、これら尿路、生殖器は、口蓋裂などと同じくら

いに生まれながらの病気が発

生しやすい部位でもあるのです。代表的なものは精巣が陰嚢の中まで降りてこない「停留精巣」で、出生男児100〜400人に1人程度と言われています。胎児のお腹の中に形成された精巣は、通常、誕生までに陰嚢に移動してくるのですが、その移動を終えられずに誕生してしまうと、そのような先天的疾患となります。「子供は小さな大人ではない」とよく言われますが、生後も色々な器官や機能が少しずつ発達していく人間において、小児の病気は大人と同じには扱えないと思われれます。症例数が多い上にやや特殊な専門性が必要なため、小児泌尿器科という分野が泌尿器科の中から派生しました。小児の手術を専門に行う小児外科という分野も別であつて協力し合う部分も多いのですが、小児泌尿器科はそれだけで独立した分野になっています。



私の出身である名古屋市立大学は全国で最初に小児泌尿器科の独立した分野ができた大学で、当院ではその初代教授である林祐太郎先生に依頼して外来診療と手術を行なっていたいただいています。私自身も一般的な泌尿器科診療のかたわら小児の分野でも研究や診療をしていますので、当院では明確に小児泌尿器科を標榜し、困っている患者さんに安心して受診いただけるように整備しました。

小児泌尿器科の疾患の中には成長の早い段階で治療を行わないと身体にダメージが残ってしまうものも多いのですが、ほとんどの治療が当院だけで可能ですので、ぜひ安心してお任せいただければと思います。また、患者さんご自身はもちろん、疾患を診断した小児科の先生や泌尿器科の先生に迷わず当院をご紹介いただければ、適切な治療に早く繋がれると考えております。また、より高度な治療が必要な場合は、さらに専門的な施設である名古屋市立大学病院への紹介も当院からスムーズに行うことが可能です。

常に新しい知見を取り入れながら、地域の核となるべく近隣医院・クリニックとの連携も。

赴任して以来第一に取り組んでいることは、蒲郡市民病院での泌尿器科治療を大病院や大病院と遜色のない高いレベルにすることです。ダヴィンチ（手術支援ロボット）の導入以後、泌尿器科について言えば、国内でできるほぼ全ての手術治療が当院で可能になりました。元々、ダヴィンチは日本において前立腺癌など泌尿器の手術から保険適用になったので、ダヴィンチの臨床が一番多いのが泌尿器科、というのがあります。ただ、治療の進化は日進月歩ですので、新しい知見をどんどん取り入れながら、仲間のスタッフと切磋琢磨しつつ、さらなる高みを目指したいと思っています。

もう一つの取り組みとしては、病気を治療するだけでなく、予防や早期発見に力を入れる、ということですが、病気になるのが一番良いのですが、なってしまうと、早

く軽いうちに見つける方が治療効果も高いことが多いです。そこで、地域の皆さんに泌尿器科疾患を中心に病気になる情報の啓発をしていき、健診をしっかり受けていただくことをおすすすめし、早期発見・早期治療の重要性を理解していただきたいと思っています。この点は、蒲郡市医師会の先生方とも協力しながら取り組みたいと考えています。

外陰部や陰茎を視診することはほとんどない。来院しやすさを向上し、全ての泌尿器科疾患の早期治療へ。

泌尿器科に対する抵抗感も、当院から率先して減らしていきたいところですが、いまだに誤解されている方が多く残念なのですが、腎臓や膀胱など尿路にかかわる病気は、ほとんどの場合、血液や尿の検査と問診によって発見されるものであるため、外陰部や陰茎を視診することは、初診であっても全くと言っていいくらいありません。ですので男性も女性も、ご高齢の方もお若い

方も、お悩み相談に行くくらいに軽い気持ちで、気楽に泌尿器科を受診していただけたらと思います。おしっこに関わることで、痛みなどなくても異変を感じたらぜひ、お早めにお近くのかかりつけの先生に相談いただいたり、当院に受診なさってください。

当院に赴任して私も現在6年目、幼少期を過ごした三河の地で地域の医療に貢献したく、引き続き力を尽くせればと考えています。地域に根差し、市民の皆さんに合った、安心して受診できる診療を提供できる存在であり続けられるよう、これからも努力していきます。

赴任当初から変わらないパワーで泌尿器科を運営していただきありがとうございます。先生のおかげでダヴィンチ手術も増えて「大病院に遜色ない医療」が実践できるようになりました。これからもよろしくお願いします。



蒲郡市民病院 CEO 城先生



みなさんの排尿に関する気掛かりを
少しでも減らす力になれば。

泌尿器科医師 富山 奈美

外科的な手術にも携わりながら外来で患者さんを継続的に診ていける面があったこと、患者さん自体は女性も多いのに女性医師が少ないことなどから泌尿器科を専門に選びました。泌尿器科の女性医師は、約10%と少数派ですが、泌尿器科の病気の罹患率の30~40%は女性です。私がここにいることで、少しでも当院の泌尿器科を受診するハードルが下がるといいなと思います。

健康診断などで尿潜血を指摘されたり、血尿が出たりすると誰でもびっくりされると思いますが、痛みなどがなくても、できれば怖がらずに早めに病院にかかっただけだと考えます。陰部を見られるんじゃないかと、内診をされるんじゃないかと心配されてる方がたくさんいらっしゃいますが、実際は、尿検査や血液検査、超音波などの検査で診断がつくことがほとんどなんです。診断がつけば生活改善なども行えて、快方に向かうことができますからね。

当科で最も患者さんが多いのは、近頃で言うところの頻尿や尿漏れのような尿トラブルです。骨盤底筋の衰えや過活動膀胱などが背景にあることが多いのですが、これらは、薬物による治療というよりも、ちょっとしたトレーニングや生活習慣の見直しで大きく効果をえられることが多いのです。このところ患者さんが増えたように思われるのは、テレビなどでも大きく取り上げられることが増えてみなさんが病院に来やすくなったのもあるでしょうし、畑仕事や家事などの肉体労働が減って筋力が全体に落ちていることもあるかもわかりませんね。

夜間頻尿は辛いものですが、水分摂取について場合により、午前中に多めに、といった指導をすることもあります。でも、そうすると患者さんによってはつい水分を控えめにしてしまい、それで体内バランスをくずして体がむくみ、余計に頻尿が出て体調を悪くしてしまう、というケースも実はあったりするんですよ。ですから、独自判断での水分制限はしないで、できるだけ体の全体を見てくれる医師の指導のもとで、少しずつ改善を目指していただけたらと思います。

知多出身の私ですが、蒲郡に来ていま3年目になります。気候も似ていて過ごしやすく、患者さんも院内で関わる方も皆さんおだやかで、とてもいい環境で仕事をさせてもらっています。どんな人も1日に何回もするのが排尿ですから、気分良く毎日を過ごしていただくためにも、皆さんの排尿に関する気掛かりを少しでも減らす力になればと思います。検査結果などについての不安や不快症状などがありましたらどうぞためらわずに、安心して受診なさってくださいね。

中根医師のツボ

＼ 愛用のアイテム /



パタゴニアの肩掛け鞆

最低限必要なものが全て入っており、急ぐ時もこれさえ持って出かければ困らない。

＼ 大好物 /



中華料理

麻婆豆腐とラーメンが特に好きです。

＼ 座右の銘 /



中根先生自筆

すぐには上手くいかないことでも、粘り強く工夫して頑張れば大概のことはできる、という思いがあり、それを行動の指針としています。

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は蒲郡市民病院を何かとご支援いただき、

誠にありがとうございました。

本年も何卒よろしく願いいたします。



最高経営責任者 城 卓志

今年はいよいよ3月から、がまごおりデジタル健康プラットフォーム「がまっと！」の運用が開始されます。蒲郡市内の医療機関・介護事業所や行政、地域の皆さんの健康データをひとつなぎにするプラットフォームを全国に先駆けて導入します。

これにより、医療・介護・行政のデータのやりとりの効率化が進み、蒲郡市全体の医療・介護サービスの向上が期待されます。

市民病院も「がまっと！」の運営に積極的にかかわり、市民の医療サービスの向上に邁進するつもりでいます。市民の皆さんにおかれましても、「がまっと！」の趣旨をご理解いただき、ぜひご参加していただけますようお願い申し上げます。

蒲郡市民病院は以前よりかかっている5つの基本方

針・目標（以下）を変わらず取り組み、病院を整備していきたいと考えております。

- ・大学病院に遜色のない医療の提供
- ・全国に先駆けた地域包括医療システムの構築
- ・地域医療の全てに中核的責任を担う覚悟と実践
- ・学生、研修医等に対する実践的教育の充実
- ・磨かれた倫理感と使命感の共有

まだまだ至らぬところも多い市民病院ですが、今後ともこのような努力を続けて、蒲郡市全体の豊かさにもつながる病院にしていきたいと考えています。今年も課題の多い年になりそうですが、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

Follow us!

公式インスタグラムのフォロー
よろしくお願いします!

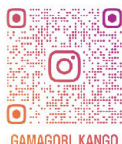
蒲郡市民病院

普段あまり見られない病院の日常や雰囲気をご紹介します。イベント・採用情報も確認できるため、要チェックですよ。



蒲郡市民病院 看護局

蒲郡市民病院の看護師の魅力をお伝えします。看護師の仕事に興味をお持ちの方は、ぜひフォローしてくださいね!



新規赴任医師のご紹介

2024年7月と10月に、
新しく2名の医師が赴任いたしました。



泌尿器科医師
ちゃや りょうすけ
茶谷 亮輔

出身大学 名古屋市立大学
前勤務地 名古屋市立大学医学部
附属東部医療センター

専門分野である尿路結石や前立腺肥大の内視鏡手術に力を入れてまいります。市民の皆さんの健康に寄与できるようがんばります。



内科医師
ながとみ だいき
永富 大暉

出身大学 名古屋市立大学
前勤務地 名古屋市立大学医学部
附属東部医療センター

蒲郡の医療に貢献できるよう努めてまいります。皆さんどうぞよろしく申し上げます。

2月3日より事前登録開始!

場所：蒲郡市民病院 患者支援センター
時間：9:30~16:00

がまごおりデジタル健康プラットフォーム

がまっと! に登録しよう!



健康に不安を感じたとき

生活データや健康情報をもとに、適切な相談ができるようになります。



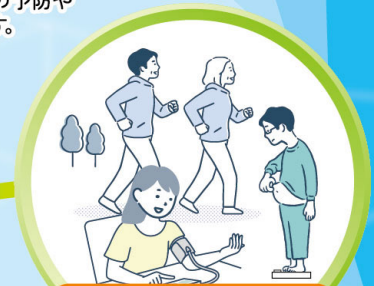
健康診断を受けたら

結果を共有して、病気の予防や適切な医療に繋がります。



急な病気や事故のとき

病歴などの詳細がわかり迅速で適切な対応がされます。



日々の健康記録で

血圧・体重・歩数等の記録が、日々の健康管理や治療に役立ちます。



介護が必要なとき

医療・介護の切れ目ないサービスで安心した生活を過ごし、家族とも共有ができます。



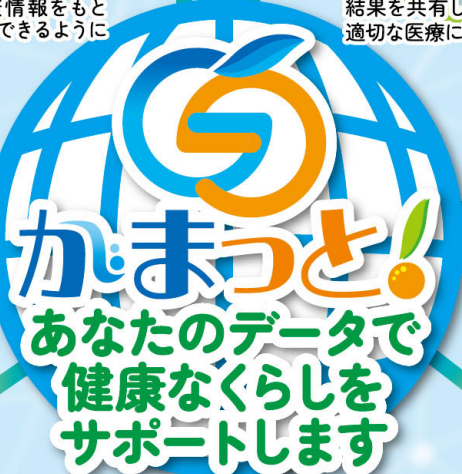
災害への備えに

災害時の避難生活でも、健康管理ができて不安を軽減できます。



普段の病院や薬局で

診察内容や検査結果の共有により、どこの医療機関でも適切な医療が受けられます。



参加方法

登録・参加
無料

STEP 1



参加施設に同意書を提出する

STEP 2



がまっと!カードが発行されます

STEP 3



医療機関や介護施設の利用時にカードを提示

STEP 4



ヘルスケアパスポートをダウンロード・登録

がまっと! についての詳細は公式HPをご覧ください。

<https://www.city.gamagori.lg.jp/site/gamatto/>

がまっと! は蒲郡市が運営する事業です。

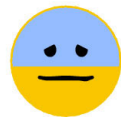
ヘルスケアパスポートは TIS 株式会社の登録商標です。



がまっと! についてのお問い合わせ先

がまっと! サポートセンター
050-1743-5524

gamatto-support@pcmed.jp



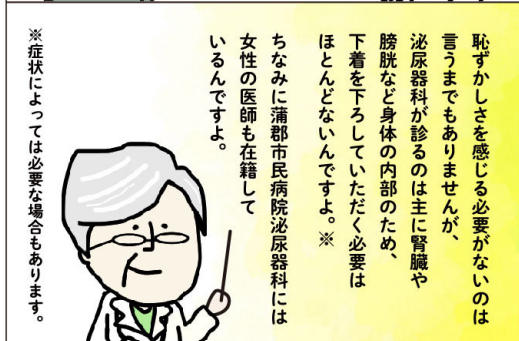
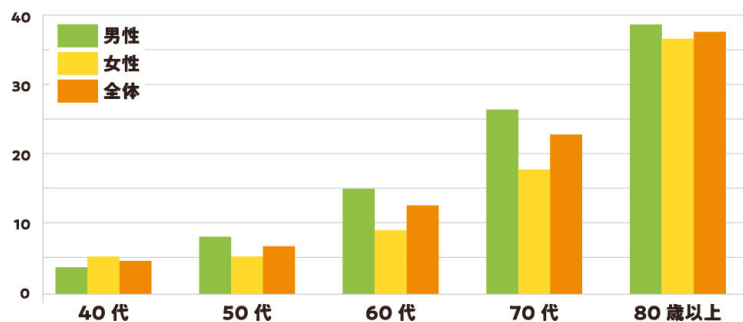
寒い時期に“頻尿”でお困りの方は 過活動膀胱かも!?

寒風にさらされ、ゾクゾク、ブルブル、「トイレ、トイレ…」と経験されることは多いと思います。寒くなると、発汗が減り、全身の血流が変化することによって尿量が増える傾向があります。また交感神経、副交感神経への刺激が変化することで尿意が強くなると考えられています。

一般的に、1日8回以上排尿することを「頻尿」、尿意を感じてすぐにトイレに行きたくなる症状を「尿意切迫感」と言います。日本に住む一般の方6,000人を対象とした調査では、寒い時期に頻尿、尿意切迫感、夜間2回以上の排尿が1.4倍悪化したと報告されています。頻尿や尿意切迫感「過活動膀胱」という病気であることが多いと考えられますが、これは40歳以上の人口の12.4%にあたる810万人に発症していると推計され、男女とも年齢とともに増加する病気です(下図)。

過活動膀胱の治療は、軽度であればお薬を使用しない生活習慣の見直しや行動療法で改善しますが、症状が強ければ薬物治療を行います。お困りの方は、泌尿器科へ受診いただきご相談ください。

過活動膀胱の有症状率 (人/10万人・年)



チームで医療を行っている 泌尿器科外来をご紹介します！

泌尿器科と言うと男性の患者さんが多い印象があると思いますが、女性や小児の患者さんも多くいらっしゃいます。また受診をためらいながら、一念発起して来院されるような場合も多くお見受けします。そのような全ての患者さんにスムーズに診療を受けていただけるように泌尿器科外来は医師、看護師、医療事務職員、一丸となって取り組んでおります。来院された全ての患者さんが『迷っていたけど、来院して良かった』と思っていただければ、私たちの“チーム”と一緒に、病気に対して前向きに、そして安心して治療を受けていただければと考えています。



新年明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

早いもので海風(かぜ)もリニューアルして今回が4度目の発刊となります。

幸い当院にはピックアップしたい内容が多くあり、いわゆる“ネタには困らない”です(笑)

今回も『大学病院と比べても遜色ないレベル』の診療科のひとつである泌尿器科をご紹介します。大変満足しております!

編集
後記

FOUNTAIN PEN

